

日時：令和5年3月24日（金曜日）15時30分から16時45分まで

場所：高浜高校 会議室

【次第】

- 1 学校長あいさつ
- 2 委員紹介
- 3 本校の教育活動報告及び情報提供並びに意見交換（各担当より）
 - ・全日制、定時制スクールポリシーについて
 - ・教育活動報告及び情報提供
 - ・意見交換
 - ・全日制スクール・ミッションについて
- 4 来年度の委員
- 5 今後の予定、その他

【配付資料】

- ① 令和4年度 学校評価報告書 実施結果（全日制）
- ② 令和4年度 学校評価報告書 実施結果（定時制）
- ③ 令和5年3月 卒業生の進路状況(全日制)
- ④ 神奈川県立高浜高等学校(全日制課程普通科)におけるスクールポリシー
- ⑤ 神奈川県立高浜高等学校(定時制課程単位制普通科)におけるスクールポリシー
- ⑥ 高浜高等学校(全日制)のスクール・ミッション

【欠席委員】

- ・平出 善男 様（平塚市立太洋中学校校長）
- ・松岡 俊 様（産業能率大学 情報マネジメント学部教授）
- ・田中 千勢子 様（須賀公民館館長）
- ・田中 恵梨佳 様（神奈川県立高浜高等学校定時制 P T A会長）

1 学校長あいさつ

- ・高校入試について、全日制、定時制それぞれの入試において選抜業務の対応を行った。それぞれの特徴を生かしながら、中学生に選ばれる高校になるよう努力を重ねたい。
- ・部活動について、本校の特色として生かされている手話コミュニケーション部が神奈川県高等学校総合文化祭のボランティア部門での最優秀賞と県知事賞を受けることができた。

2 委員の紹介

- ・本校副校長より各委員の紹介。

3 委員紹介

【委員】

- ・川口 英一 様（学校法人 鶴嶺学園校長）
- ・内海 明 様（高浜台自治会長）
- ・赤部 勉 様（平塚市地域作業所連絡会会長）
- ・伊藤 みゆき 様（高浜高校同窓会長）
- ・岡田 雅彦（高浜高校学校長）

【教職員】

- ・丸野 眞琴（副校長）
- ・内藤 朋子（事務長）
- ・小俣 剛（全日制教頭）
- ・倉田 慎一（定時制教頭）
- ・八木澤 裕基（全日制総括教諭）
- ・程島 敏博（全日制総括教諭）
- ・磯崎 厚（全日制総括教諭）
- ・古賀 裕美（全日制総括教諭）
- ・遠藤 美代子（全日制総括教諭）
- ・露木 雅史（全日制総括教諭）
- ・漆原 誠（定時制総括教諭）
- ・金城 雅（定時制総括教諭）

4 本校の教育活動報告及び情報提供並びに意見交換（各担当より）

【スクールポリシーについて】

- ・全日制、定時制それぞれ設定されているが、全日制について一部変更がある。全日制について、令和6年度入学生について、面接が選択および特色選抜として活用されることとなった。学びに向かう力については、中学校で行われている観点別評価をもとに、本校の入学者の受け入れに活かしていくことを検討している。
- ・定時制については変更していない。

【教育活動報告及び情報提供、意見交換】

●定時制

○総務グループ

- ・学習指導について、外国につながりがある生徒に対する支援を日常的に行ってきた。授業については、日本語の指導を含めた対応を継続的に行うとともに、長期休業中にも日本語の試験等を行い、日本語の上達につなげることができた。
- ・夏季休業中に夏期講習を実施し、96時間分の講座を用意した。複数の生徒が参加し、複数講座を選択する生徒も見られた。
- ・授業関係では、職員の研究授業を数学、理科で実施し、授業の進め方について職員研修も併せて実施した。特に個別の生徒対応についても検討を行い、どのような対応が望ましいのか方法の検討も実施した。
- ・年2回実施された授業評価では、多くの評価で前期の授業よりも後期の授業のほうが全体的に良好な評価を受けることができた。生徒の視点で分かりやすい授業を検討することを継続的に実施した。

- ・防災訓練について、車いす等を使用する生徒への対応についても検討を行った。特に階段、段差への対応について、教職員による対応方法を実践した上での防災訓練が行われた。
- ・ホームページの更新について、生徒の活動の様子を適切に発信できるように努めた。更新回数については予定よりも多くの更新を行った。

○生徒支援グループ

- ・生徒支援について、さまざまな状況の生徒への適切な対応および学校行事への参加を促す対応を行った。
- ・生徒個別の状況を把握し、適切な対応につなげるため、ケース会議を実施し、困難がある状況を少しでも改善できるよう養護教諭、スクールカウンセラーを含めた対応に努めた。
- ・学校行事では、体育祭、文化祭ともに生徒の参加率が70%を超え、昨年度よりも10%程度増加した。行事については、生徒の主体性を生かすために、生徒の意見を活用した上での運営に努めたい。
- ・進路支援について、担任が中心となった対応となっていた面もあるため、生徒の進路に関する課題や進路希望への対応について、学校としての対応についての検討も必要であることが課題であった。
- ・地域貢献活動について、1年生、3年生で実施することができた。実施については夜間のため、生徒の安全面を考えると不安もあった。そのようなことから、ゆかり会からの安全ベストを購入していただくことができた。安全ベストを活用した上での地域貢献を今後も実施したいと考えている。

○各委員からの質問

- ・地域貢献活動については年に複数回の活動となっているため、生徒が安全に、安心して活動できる環境整備ができたことはとてもよかった。
- ・地域住民の視点からでは、高浜高校の防災訓練や地域貢献活動などがどのように実施されているのか、周知されていない傾向があるため、発信方法について検討をお願いしたい。
- ・防災訓練について、地域の避難場所となっているため、地域の人々が来校することを想定した訓練となっていることも必要かもしれないと考えた。特に体育館が避難所となっているが、海が近いので定時制の建物が避難所として活用することも検討してもいいのではないかと。
- ・数年前の大雨の際に、高浜高校の体育館が避難所として活用されたが、雨漏りが発生していた。避難した場所の安全性の確保について点検、修繕をお願いしたい。
- ・車いすを使用している生徒への対応など、生徒同士での対応にもつながる可能性があるため、人とのつながりをより学校生活の中で理解し、体験できる機会にもなると考えられる。このような行動が学校の雰囲気や生徒の生活面にも良い効果につながるのではないかと考える。
- ・生徒のケース会議は、継続性は重要となるため、次回開催予定を計画した上での対応が、より生徒への支援につながると考える。

○回答

- ・夜間の避難について、定時制の生徒が校内にいることも考えられるため、避難場所として活用することが可能なのか確認が必要である。修繕については、県への要望として地域住民の方々からのご意見等を含めて報告、対応したい。
- ・生徒同士で助け合うだけでなく、相手の状況を考えた行動や発言が見られることが多くある。やさしさだけでなく、配慮した対応ができる生徒が増えてきたことは特徴的である。

●全日制

○学務グループ

- ・1年生より教育課程が変更されたことと同時に、在県外国人生徒の受け入れが行われたため、前年とは異なった点があった。そのような中でも、学校全体として生徒の学習状況について、成績不良となる生徒が見られず、進級につなげられた点は大きかった。
- ・来年度以降について、入試制度の変更もあるため、適切な対応および中学生への情報提供についても検討を行いたい。

○学習・進路支援グループ

- ・生徒の進路実現について、チャレンジ講座、夏期講習、各種検定、ICT活用による学習教材の活用の実施を行った。
- ・ICTの活用について、対面学習が難しい場面については、補習内容等の配信を行い、対応を行ってきた。対面で実施できる内容については、対面学習の検討を今後も行っていきたい。
- ・各学年において、上級学校の先生方によるガイダンス、講演会等を実施し、進路実現に向けた意識の醸成および実現方法に関する情報提供を行った。
- ・職業体験について、複数名の生徒が参加できたが、開催できない職業体験もあるため、今後の状況を検討した対応が必要となると考えている。
- ・進学希望者については、大学進学者が令和3年度と同様程度となっている。
- ・就職希望者が減少している傾向にある。

○活動支援グループ

- ・生徒会、委員会、部活動を通して生徒の社会性、自立性の育成に努めた。部活動や行事については、活動内容について約8割の生徒が満足しているというアンケート結果が出ている。部活動加入率は約7割となっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも各種行事を行うことができたことは大きな成果であったと考える。
- ・各種行事については、生徒の主体性を生かした活動が展開できる支援を行うとともに、部活動加入率の向上にも努めたい。

○運営グループ

- ・校内環境整備について、校内の壁面塗装およびトイレの改修工事が行われた。
- ・防災訓練について、防災備蓄用品を購入することと同時に、喫食訓練を行い、災害時の状況について生徒が状況を理解できるよう指導を行った。
- ・AED訓練について、平塚市の消防署による講習を実施できた。新型コロナウイルス感染症対策を実施した上での訓練となっているが、実施したことで生徒の安全面への支援を行うことができた。オンラインによる開催では生徒に意図や役割が伝わりにくいため、対

面による訓練は効果があったのではないかと考える。

○生徒支援グループ

- ・授業への対応および全校集会などでは落ち着いた状況で臨んでいる生徒が多い。
- ・生徒指導案件としては、SNSによるトラブルが増えている傾向がある。
- ・外国につながりがある生徒への対応も今年度から実施されたが、さまざまな準備が不十分ではあったと考える。
- ・新型コロナウイルス感染症の関係で、PTAと協働した交通安全指導を行ってきたが、継続的な実施ができていない状態であった。今年度、1回実施できたが、再度、PTAと協働した指導を検討したい。
- ・自転車のヘルメット着用について、近隣の学校との指導方法、周知方法についても検討を行っている最中である。
- ・いのちと性に関する講演会を実施し、生徒が熱心に耳を傾け、アンケートからも生徒の満足度が高かったことが特徴的であった。

○広報・連携グループ

- ・地域の方々のご協力をいただいた上で、学校運営協議会と同時に、地域教育懇談会が開催できた。
- ・ボランティア活動等について、個別の団体に相談等を行い、学校内で開催できる形でのボランティア活動および地域貢献活動を行うことができた。ボランティア活動についても、多様な形があることと同時に、生徒の状況や社会情勢に応じた形での対応、検討、創出を行うことが必要であることが分かった。
- ・情報発信について、学校内の生徒の活動、学校の状況を継続的に発信するとともに、発信内容をさまざまな視点から検討したいと考える。

○各委員からの質問

- ・ボランティア活動など、3年間開催できていない状況があったため、福祉の現場とのつながりが薄れてしまったことと同時に、生徒がどのようにボランティアに参加するのかわかりにくい面も課題となって見えてきた。福祉に関する人材育成だけでなく、人とのつながりを育成する面でも、ボランティア活動など学校外での学習には意義があると考ええる。
- ・PTAとの協働について、コロナ前の状況を知らない教員も増えてきていると考える。学校としてコロナ前に実施していた内容について、活動が再開できることが何かを検討していくことは必要であると考ええる。特に、福祉教養コースが解消された後も、福祉の醸成は継続的に行われてきた面が見られる。そのような土壌があるため、コロナ前に戻せるものを戻すための力を発揮していただけたらと思う。
- ・人とのつながりを大切にすることを土台として、生徒にどのような活動をさせることでその力を身に付けられるのか、検討を行うことで生徒の社会性や人への配慮が身につくのではないかと考える。

【全日制スクール・ミッションについて】

●学校長より

- ・令和6年度より、通級指導が加わり、「生徒の多様な教育」についてスクール・ミッションに含めることとなった。

- ・福祉に関する学習を展開し、特徴を有している本校において、一部の授業において社会性を身に付ける機会を設ける学習が行われることとなる。

4 来年度の委員

- ・学校運営協議会の委員委嘱が毎年更新となる。

5 今後の予定、その他

- ・今回の会議の内容をまとめて、各委員に送付させていただき、確認を行った上で、本校ホームページに掲載を予定している。来年度以降、日常の教育活動が展開できる可能性が高まっているため、それらが実施できることを期待するとともに、生徒の活動が充実したものとなるように教職員が努力していきたい。

閉会